事例No.	2125
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	福岡県

事例区分	DX

タグ	・観光 ・ICT

事例種類	文化・スポーツ

事例内容・タイトル

デジタル技術による展示解説の充実

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

145 デジタル技術による展示解説の充実【福岡県】

事業の概要

○ 九州国立博物館では、来館されたお客様が、ご自分のスマートフォンで音声ガイドを楽しめる「ナビレンスdeきゅーはく」のサービスを、令和４年４月から開始。

○ 文化交流展示室の作品ガイドのほか、館内及び館周辺の動線を案内する機能があり、多言語ユーザーや視覚障がいのある方にも利用していただける仕様としている。

○ スマートフォンやイヤホンをお持ちでない来館者のために、端末（アイポッドタッチ）やイヤホンを貸し出している。

■ 「ナビレンスdeきゅーはく」とは
・本音声ガイドはアプリ「NabiLens（ナビレンス）」を使用
・スマートフォンでアプリを起動させ、専用標識にカメラを向けると、標識に登録された文章がコンピューター音声で自動再生される。
・スマートフォンの言語設定に応じ、30言語以上に自動翻訳。





【参考情報】 人口：512.4万人
関連URL：
https://www.kyuhaku.jp/exhibition/exhibition_info_navi.html
（九州国立博物館ホームページ）

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー


（総務省）

取組の経緯・きっかけを教えてください。


（福岡県）

従来は音声ガイドの機器を貸し出していましたが、コロナ下で接触感染リスクを下げるため、来館者自身のスマートフォンを活用することにしました。



利用者の反応（声）はいかがですか？



「NaviLens」はもともと視覚障がいのある方のためのガイドアプリとして開発されたもので、従来の利用者層に加えて視覚障がいのある方にもお使いいただけるため、好評いただいています。



これから事業を考えている自治体に向け、一言お願いします。



「NaviLens」は、視覚障がいのある方のみならず聴覚障がいのある方、外国人など様々な方へのアクセシビリティ向上のため、様々なシーンで活用できます。お客様が快適に利用できるよう、さらなる改善に取り組んでまいります。

★担当：福岡県人づくり・県民生活部 文化振興課
九州国立博物館・世界遺産室★

令和3年度事業費　9,030千円